

# 2025年度(2026年3月期) 期末決算 説明資料

成田国際空港株式会社  
2026年5月28日



## 連結決算のポイント及び業績予想について 3

---

### I. 2025年度 連結決算及び2026年度連結業績予想 4

2025年度 航空取扱量実績／2025年度 連結決算概要／2026年度 航空取扱量見通し／2026年度 連結業績予想

---

### II. セグメント情報 9

セグメント別損益の状況

---

### III. その他データ等 13

航空機発着回数・航空旅客数推移／連結決算推移／連結貸借対照表の概要／連結キャッシュ・フローの概要／長期債務残高と平均金利の推移  
債務償還の見通し／【単体】2025年度決算・2026年度業績予想

---

# 連結決算のポイント及び業績予想について

## 2025年度 連結決算

- 航空取扱量は、国際線発着回数及び外国人旅客数が年度として過去最高を更新し、航空旅客数は歴代2位の水準となりました。
- 航空取扱量の増加を背景に、営業収益は5期連続の「増収」となり、民営化以降の最高値を更新しました。
- 一方、諸物価高騰や需要拡大に対応した施設運営費及び老朽化設備の修繕・更新費用等の増加、固定資産除却損等の発生により、当期純利益は「減益」となりました。

## 2026年度 連結業績予想

- 航空取扱量は、国際情勢や経済動向の先行きに不透明感があるものの、国際線旅客便における底堅いインバウンド需要の継続や、国際貨物便の堅調な伸び、国内線の増便を想定していることから、2025年度並みを見込んでおります。
- 営業収益は6期連続で増収となり、過去最高となるものの、諸物価高騰や需要拡大に対応した施設運営費及び老朽化設備の修繕・更新費用等の増加により、当期純利益は2025年度比で「減益」を見込んでおります。

※ 実際の業績は航空需要等経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。

# I. 2025年度連結決算及び2026年度連結業績予想

# 2025年度 航空取扱量実績

- 航空機発着回数は、アジア、北米路線を中心として新規就航や増便があった結果、国際線発着回数は年度として過去最高となり、全体として25.4万回(前年度比103.5%)と好調に推移しました。
- 航空旅客数は、引き続き旺盛なインバウンド需要により外国人旅客数が年度として過去最高を記録したほか、近距離アジア路線を中心に日本人旅客も緩やかに回復しました。この結果、全体では歴代2位の水準となる4,258万人(前年度比104.5%)となりました。
- 国際航空貨物量については、年間を通じて3国間輸送が好調に推移し、前年度比104.8%となりました。

	2024年度 A	2025年度 B	増減 B-A	% B/A×100	【参考】 2019年度比(%)
航空機発着回数(万回)	24.5	25.4	0.8	103.5	98.3
国際線	19.5	20.5	1.0	105.3	101.6
国内線	4.9	4.8	△0.1	96.6	86.3
航空旅客数(万人)	4,077	4,258	181	104.5	102.7
国際線	3,337	3,539	201	106.0	104.0
日本人	828	918	89	110.8	67.2
外国人	2,273	2,410	136	106.0	145.0
通過客	235	210	△24	89.4	56.3
国内線	739	719	△20	97.3	96.5
国際航空貨物量(万t)	196	206	9	104.8	100.9
給油量(万kl)	339	356	17	105.0	80.8

# 2025年度 連結決算概要

- ・ 営業収益は、国際線においてアジア・北米路線を中心とした新規就航や増便により旅客需要が堅調に推移したことを背景に、空港使用料収入、旅客施設使用料収入、物販・飲食収入を中心に増加し、前年度比156億円増の2,794億円となりました。これにより5期連続の増収となり、民営化以降の最高値を更新しました。また、空港内店舗売上高は2,022億円と3年連続で最高値を更新しました。
- ・ 一方、営業費用は、諸物価高騰や需要拡大に対応した施設運営費及び老朽化設備の修繕・更新費用等の増加により、前年度比154億円増の2,369億円となりました。
- ・ この結果、営業利益は前年度比2億円増の425億円となりましたが、固定資産除却損等の発生により、親会社株主に帰属する当期純利益は前年度比80億円減の270億円となりました。

(単位:億円)

	2024年度 A	2025年度 B	増減 B-A	% B/A×100	【参考】 2019年度比
営業収益(外部顧客への売上高)	2,637	2,794	156	105.9	117.8
空港運営事業	1,072	1,163	90	108.4	106.9
リテール事業	1,235	1,268	32	102.6	134.0
施設貸付事業	299	314	15	105.1	102.4
鉄道事業	29	48	18	161.9	162.6
営業費用	2,214	2,369	154	107.0	120.6
営業利益	422	425	2	100.6	104.3
空港運営事業	△91	△116	△24	-	-
リテール事業	405	413	8	102.0	168.9
施設貸付事業	103	102	△1	98.9	77.4
鉄道事業	6	26	19	395.1	425.6
経常利益	404	397	△7	98.2	101.5
親会社株主に帰属する当期純利益	351	270	△80	77.0	110.8

# 2026年度 航空取扱量見通し

- 26年度の航空取扱量見通しは、発着回数及び旅客数ともに、25年度並みと想定しています。
- 航空機発着回数は、国際情勢や経済動向の先行きに不透明感があるものの、国際線旅客便における底堅いインバウンド需要の継続や、国際貨物便の堅調な伸び、国内線の増便を想定していることから、全体として25.5万回を見込んでおります。
- 航空旅客数は、足元での高水準な搭乗率の継続を想定していることから、25年度並みの4,280万人を見込んでおります。

	2025年度 実績 A	2026年度 見通し B	増減 B－A	% B/A×100
航空機発着回数(万回)	25.4	25.5	0.0	100.3
国際線	20.5	20.6	0.0	100.0
国内線	4.8	4.9	0.0	101.8
航空旅客数(万人)	4,258	4,280	21	100.5
国際線	3,539	3,560	20	100.6
国内線	719	720	0	100.0
国際航空貨物量(万t)	206	209	2	101.2
給油量(万kl)	356	370	13	103.8

# 2026年度 連結業績予想

- ・ 営業収益は、航空取扱量が概ね25年度同様に堅調に推移すると想定していることから、空港使用料収入、給油施設使用料収入及び施設の貸付料収入が増収となり、一部店舗の改装に伴う休業の影響で物販・飲食収入がやや減少するものの、25年度比19億円増の2,814億円となり、6期連続の増収、過去最高となる見込みです。
- ・ 営業費用は、諸物価高騰や需要拡大に対応した施設運営費及び老朽化設備の修繕・更新費用等の増加により、25年度比189億円増の2,559億円となる見込みです。
- ・ この結果、営業利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は減益を見込んでおりますが、収益は引き続き過去最高水準を更新する見通しであり、コストマネジメントの徹底等により、業績予想の達成及び収益力の向上に努めてまいります。

※ 実際の業績は航空需要等経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。

	2025年度 実績 A	2026年度 予想 B	増減 B-A	(単位:億円) % B/A×100
営業収益(外部顧客への売上高)	2,794	2,814	19	100.7
空港運営事業	1,163	1,199	35	103.1
リテール事業	1,268	1,242	△26	97.9
施設貸付事業	314	324	9	103.1
鉄道事業	48	48	△0	99.0
営業費用	2,369	2,559	189	108.0
営業利益	425	255	△170	59.9
空港運営事業	△116	△239	△122	-
リテール事業	413	383	△30	92.6
施設貸付事業	102	90	△12	87.9
鉄道事業	26	25	△1	95.6
経常利益	397	207	△190	52.1
親会社株主に帰属する当期純利益	270	129	△141	47.7



## Ⅱ. セグメント情報

- 営業収益は、国際線においてアジア、北米路線を中心とした旅客便の新規就航や増便もあり好調に推移した結果、前年度比90億円増収の1,163億円となりました。
- 営業費用は、人件費や諸物価高騰に伴う施設維持管理コストの増加により、前年度比122億円の増加となりました。
- 結果、営業損益は、前年度比24億円の減益となり、116億円の損失となりました。

(単位:億円)

空港運営事業	2024年度 A	2025年度 B	増減 B－A	% B/A×100	【参考】 2019年度比
営業収益(外部顧客への売上高)	1,072	1,163	90	108.4	106.9
空港使用料収入	351	366	14	104.1	89.3
旅客施設使用料収入	451	491	39	108.7	124.1
給油施設使用料収入	125	142	16	113.5	92.2
その他収入	144	163	19	113.7	127.6
営業費用	1,252	1,374	122	109.7	119.4
営業利益	△91	△116	△24	-	-
(営業利益率)	-	-			

注:記載の営業収益には、当社グループ内での製品・サービスの売上(セグメント間の売上)は含まれておりません

- 営業収益は、国際線旅客数が前年度を上回ったことに加え、新たな需要創出を目的とした新規出店が売上に寄与し、物販・飲食収入、構内営業料収入が増収となり、前年度比32億円増収の1,268億円となりました。空港内店舗売上高は2,022億円と3年連続で最高値を更新しました。
- 営業費用は、商品仕入原価及び人件費等の増加により、前年度比23億円の増加となりました。
- 結果、営業利益は、前年度比8億円増益の413億円となりました。

(単位:億円)

リテール事業	2024年度 A	2025年度 B	増減 B－A	% B/A×100	【参考】 2019年度比
営業収益(外部顧客への売上高)	1,235	1,268	32	102.6	134.0
物販・飲食収入	948	957	9	101.0	129.1
構内営業料収入	128	136	8	106.2	127.1
その他収入	158	173	15	109.8	179.2
営業費用	838	862	23	102.8	121.3
営業利益	405	413	8	102.0	168.9
(営業利益率)	32.6%	32.4%			

注:記載の営業収益には、当社グループ内での製品・サービスの売上(セグメント間の売上)は含まれておりません

- 営業収益は、第8貨物ビル供用開始(2024年10月)等により、前年度比15億円の増収となりました。
- 営業費用は、人件費や諸物価高騰に伴う施設維持管理コストの増加により、前年度比17億円増加となりました。
- 結果、営業利益は、前年度比1億円減益の102億円となりました。

(単位:億円)

施設貸付事業	2024年度 A	2025年度 B	増減 B－A	% B/A×100	【参考】 2019年度比
営業収益(外部顧客への売上高)	299	314	15	105.1	102.4
営業費用	211	229	17	108.4	122.2
営業利益	103	102	△1	98.9	77.4
(営業利益率)	32.8%	30.8%			

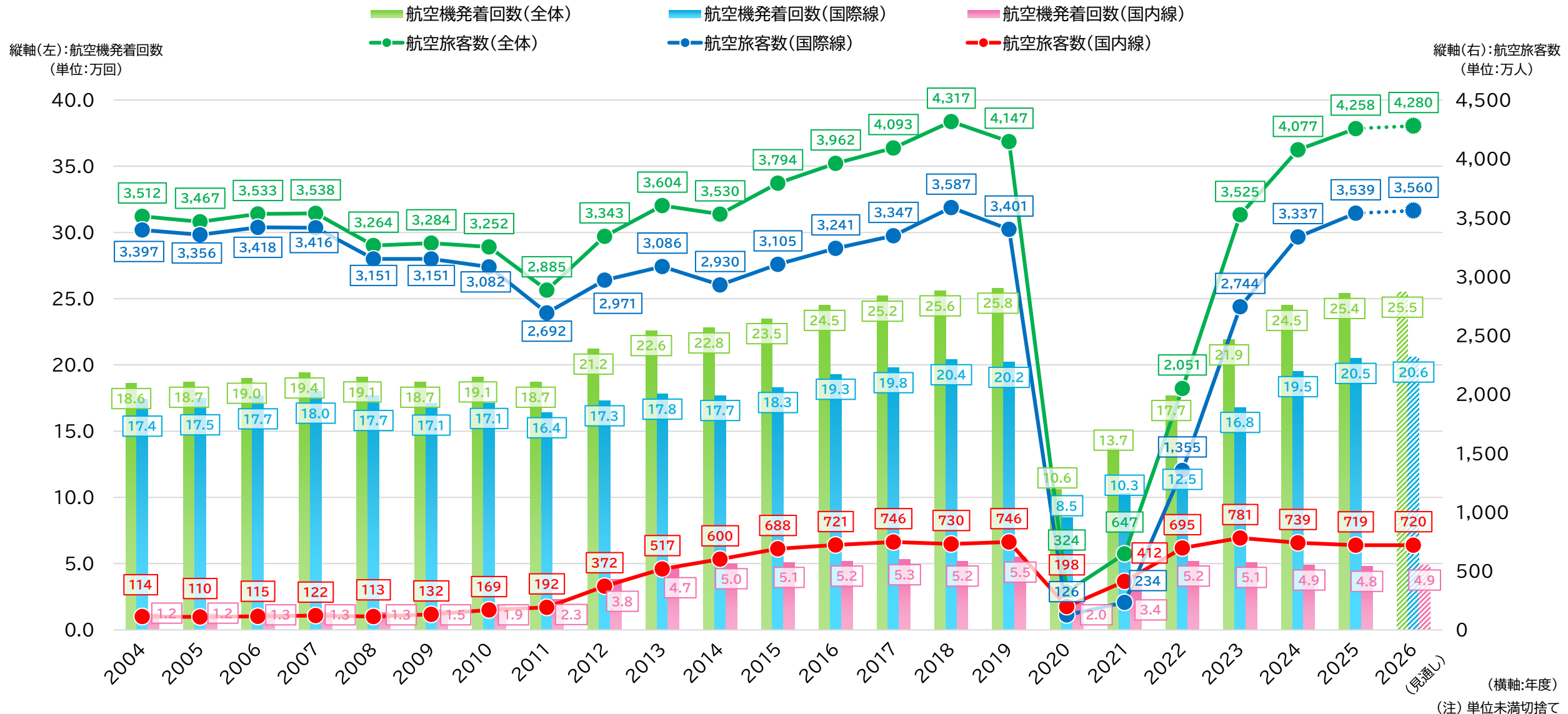
- 営業収益は、成田高速鉄道アクセス線の線路使用料改定(2025年度から)により、前年度比18億円の増収となりました。
- 結果、営業利益は、前年度比19億円増益の26億円となりました。

(単位:億円)

鉄道事業	2024年度 A	2025年度 B	増減 B－A	% B/A×100	【参考】 2019年度比
営業収益(外部顧客への売上高)	29	48	18	161.9	162.6
営業費用	23	22	△0	95.9	94.0
営業利益	6	26	19	395.1	425.6
(営業利益率)	22.0%	53.7%			

## Ⅲ. その他データ等

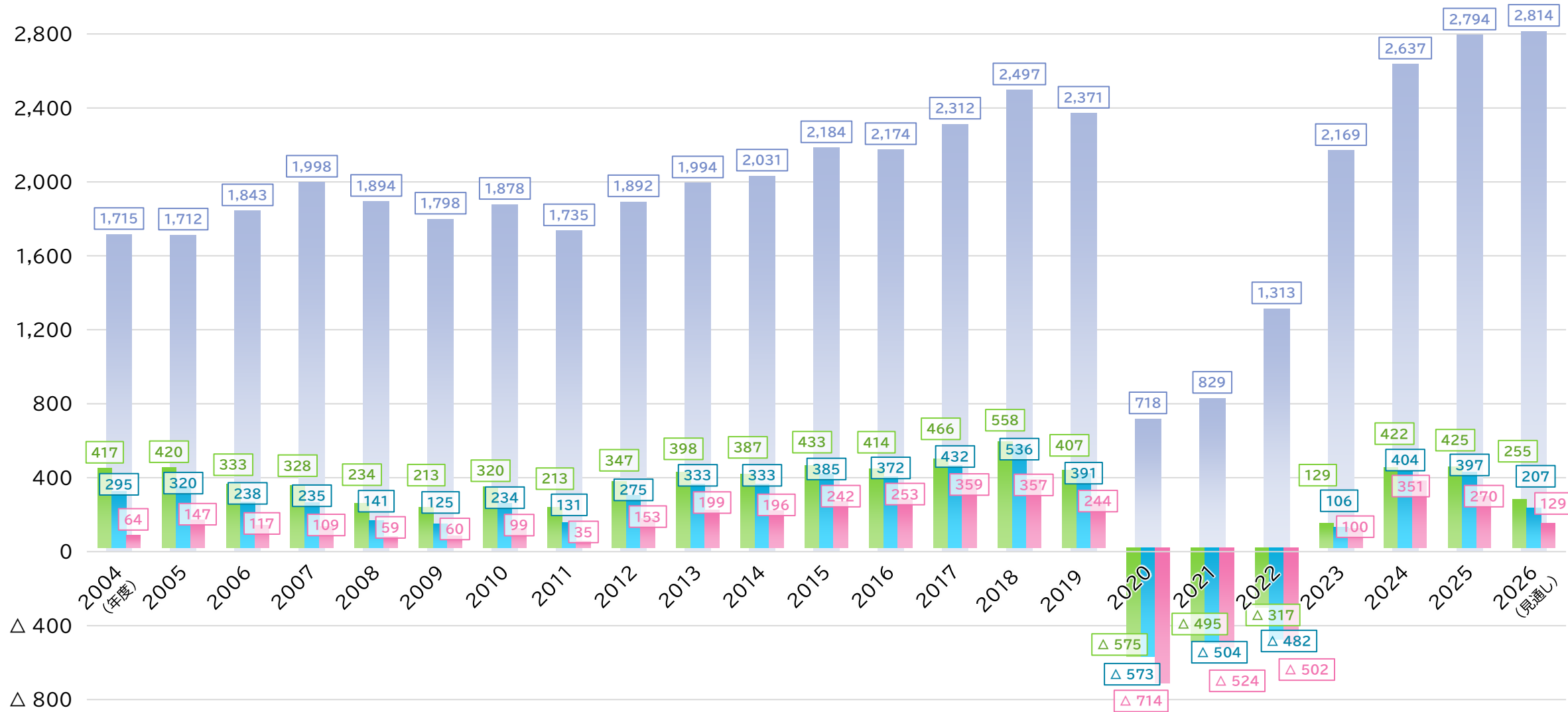
# 航空機発着回数／航空旅客数推移(民営化以降)



# 連結決算推移(民営化以降)

(単位:億円)

営業収益 営業利益 経常利益 親会社株主に帰属する当期純利益



# 連結貸借対照表の概要

- 資産合計は、固定資産の取得等により前年度末比1.6%増の1兆4,332億円となりました。
- 負債合計は、社債の償還等により前年度末比0.3%減の1兆1,272億円となりました。
- 純資産合計は、前年度末比9.2%増の3,060億円となりました。自己資本比率は、前年度末19.3%から1.4ポイント改善し20.7%となりました。

(単位:億円)

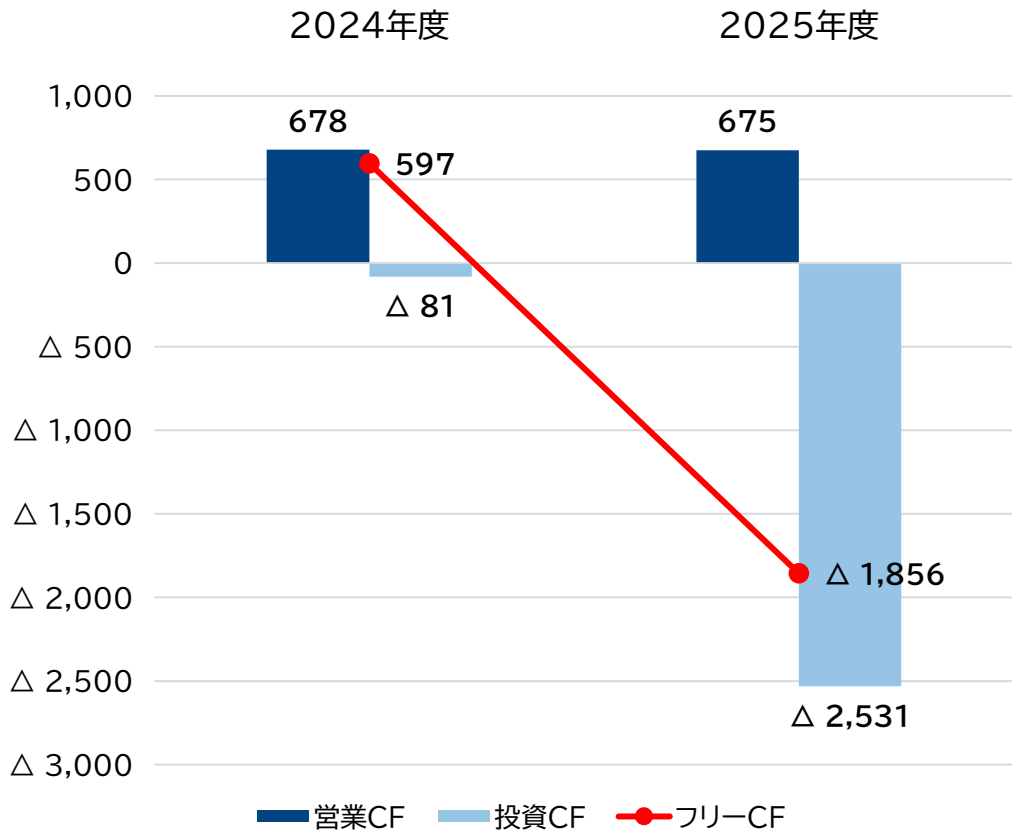
	2024年度 期末 (A)	2025年度 期末 (B)	増減 (B)－(A)	% B/A×100
流動資産	4,741	3,830	△911	80.8
固定資産	9,367	10,501	1,134	112.1
有形固定資産	9,070	10,182	1,111	112.3
無形固定資産	96	92	△4	95.7
投資その他の資産	199	227	27	113.7
<b>資産合計</b>	<b>14,109</b>	<b>14,332</b>	<b>223</b>	<b>101.6</b>
流動負債	1,132	1,097	△34	96.9
固定負債	10,173	10,174	0	100.0
<b>負債合計</b>	<b>11,306</b>	<b>11,272</b>	<b>△34</b>	<b>99.7</b>
<b>純資産合計</b>	<b>2,802</b>	<b>3,060</b>	<b>257</b>	<b>109.2</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>14,109</b>	<b>14,332</b>	<b>223</b>	<b>101.6</b>



# 連結キャッシュ・フローの概要

- 営業CFは、税金等調整前当期純利益が減少したものの、現金支出を伴わない費用の増加等により、キャッシュ・インは前年度並みの675億円となりました。
- 投資CFは、固定資産の取得による支出の増加や譲渡性預金の預け入れによる支出等により、キャッシュ・アウトは前年度比2,450億円増の2,531億円となりました。
- 財務CFは、社債の償還による支出等により、キャッシュ・アウトは145億円となりました。

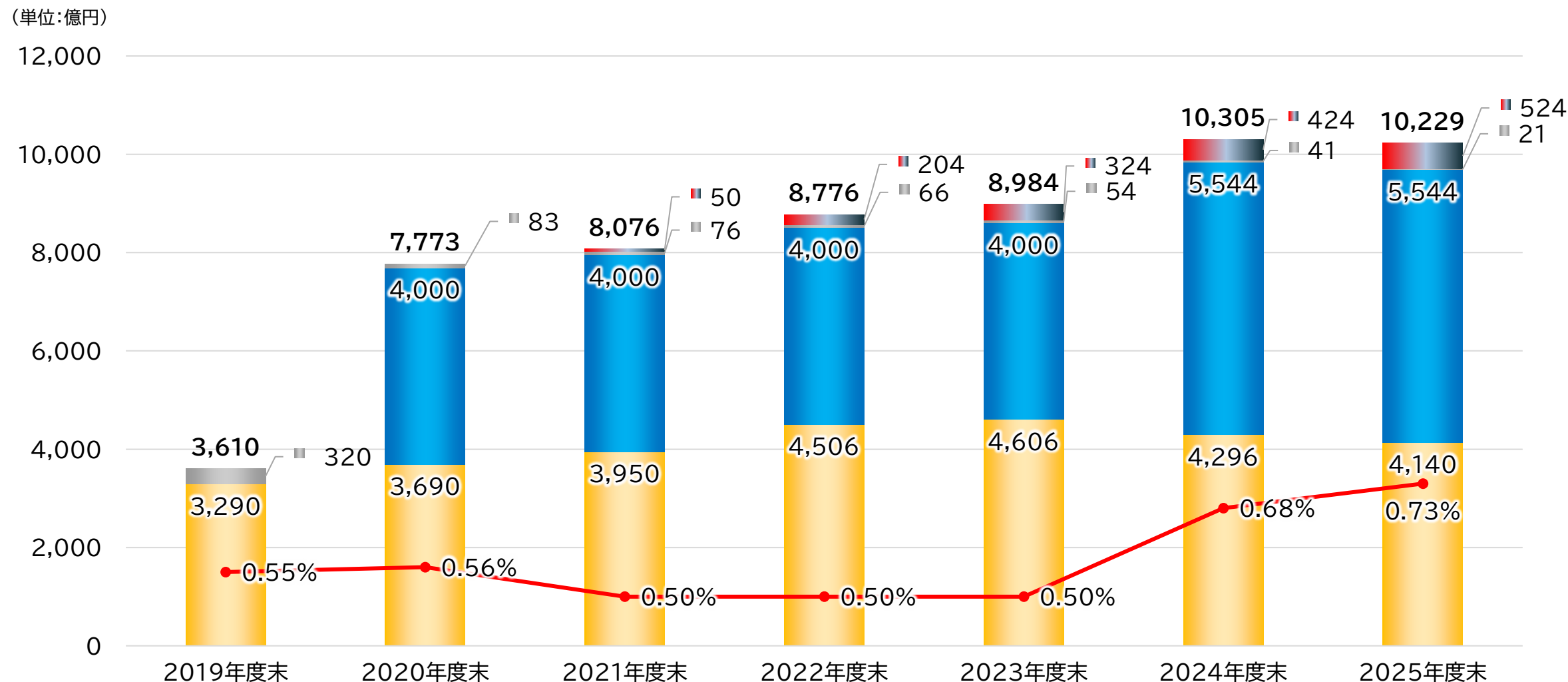
	2024年度 (A)	2025年度 (B)	(単位:億円) 増減 (B)-(A)
営業キャッシュ・フロー	678	675	△3
投資キャッシュ・フロー	△81	△2,531	△2,450
固定資産の取得による支出	(△877)	(△1,444)	(△566)
譲渡性預金の預入による支出	(△3,700)	(△4,384)	(△684)
譲渡性預金の払戻による収入	(2,500)	(5,984)	(3,484)
定期預金の預入による支出	-	(△2,680)	(△2,680)
定期預金の払戻による収入	(1,991)	-	(△1,991)
その他	(5)	(△7)	(△12)
フリー・キャッシュ・フロー	597	△1,856	△2,453
財務キャッシュ・フロー	1,317	△145	△1,462
現金及び現金同等物の期末残高	2,788	787	△2,001



※預入期間が3か月を超える譲渡性預金・定期預金の預入・払戻は、連結キャッシュ・フロー計算書の作成ルールに基づき投資キャッシュ・フローに含めて表示しております

# 長期債務残高と平均金利の推移(連結)

2026年3月31日時点

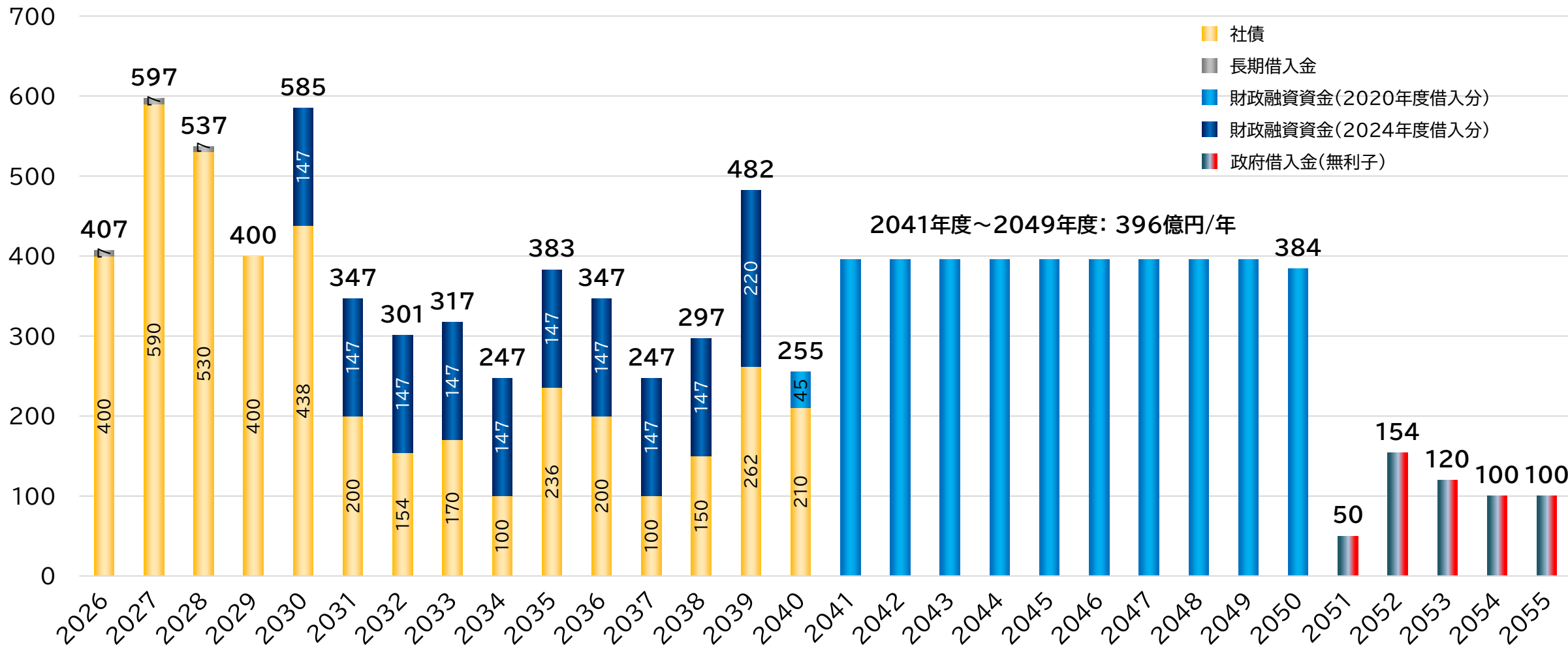


※ 平均金利の算出にあたっては、無利子借入金を除く。

# 債務償還の見通し(連結)

(単位:億円)

2026年3月31日時点



※ 債券に関する償還額は、額面金額を記載。

※ 財政融資資金(2020年度借入分)は総額4,000億円、返済方法は20年据置、以降10年元本均等返済。

※ 財政融資資金(2024年度借入分)は総額1,544億円、返済方法は5年据置、以降10年元本均等返済

※ 政府借入金(無利子)は満期一括償還で償還期限は30年。

# 【単体】2025年度決算／2026年度業績予想

## 2025年度 単体実績

(単位:億円)

	2024年度 (A)	2025年度 (B)	増減 (B) - (A)	% (B)/(A)×100
営業収益	1,697	1,831	133	107.8
営業費用	1,427	1,580	152	110.7
営業利益	270	250	△19	92.7
経常利益	231	201	△30	87.1
当期純利益	215	135	△79	62.9

## 2026年度 単体業績予想

(単位:億円)

	2025年度 実績 (A)	2026年度 予想 (B)	増減 (B) - (A)	% (B)/(A)×100
営業収益	1,831	1,877	45	102.5
営業費用	1,580	1,759	178	111.3
営業利益	250	118	△132	47.1
経常利益	201	55	△146	27.2
当期純利益	135	28	△107	20.6

実際の業績は航空需要等経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。

## 終わりにあたって

- ➔ 本資料は、当社の業績等について投資家の皆様に情報提供することを目的としたものであり、債券の募集又は売出を意図したものではありません。
- ➔ 本資料の内容については、将来の予測や見通しに関するものが含まれておりますが、こうした将来の予測等には不確定な要因を含んでおり、将来の業績等を保証するものではありません。
- ➔ 将来の業績等については、様々な要因により変化するものであることをご承知おきください。

成田国際空港株式会社 財務部 財務計画室

TEL:0476(34)5838

